



SOROPTIMIST®

Investing in Dreams

こども食堂「にこにこ清風食堂」を訪問しました。

2020年9月17日(木)

国際ソロプチミスト町田
会長 柴崎亜紀子

2020年9月17日(木)、町田市金井所在の特別養護老人ホーム清風園が、地域ボランティアの力を借りて、社会貢献事業の一環として開始された、こども食堂「にこにこ清風食堂」へ訪問しました。

今や、こどもたちの孤食をなくすため、全国的に広がりを見せている「こども食堂」ですが、「にこにこ清風食堂」は、2016年6月に発足し、町田市では第1号となります。

国際ソロプチミスト町田は、2016年5月より、町田市こども生活部子ども家庭支援センターの職員様と開設に向け検討会議を実施し、2018年度から満5年間の支援期間と定めて支援させて頂くことを決定しました。

「子どもの孤食を減らしたい」という一心で始めた活動でしたが、初年度より、多くの子どもたちが集まり、地域ボランティア、玉川学園大学教育学部の皆さんにより、ハロウィン食事会、クリスマス会等の工夫を凝らしたプログラムが提供されています。今年は、コロナ禍での開催となり、月に一度の開催となっていますが、訪問した当日も小学校1年生、3年生の姉弟2名が元気に来園していました。

市の寄付金も、国の助成金も頂かずに、寄付金で運営されている同食堂が、今後、益々必要不可欠になってくる昨今の教育事情ですが、グループホームの高齢者との交流や、学生ボランティアによる宿題や遊びの支援、全員で夕食を食べることなど、子どもの社会性や相手を思いやる気持ち、生きていく力を養う場所として、子どもたちの将来に大きな影響を与えているものと、改めて認識させて頂きました。



社会福祉法人賛育会 清風園

施設長 北川達三様、木口圭子様、
ボランティアの皆様と一緒に施設内
を見学させて頂きました。



遠方からのボランティア大学生さんが教育実習をかねて食事作りに応援に来てくれていました。
今日のメニューは、カレーライス、サラダ、デザートにみかんです。



コロナ禍ですが、姉弟2名の来園で少し賑やかになりました。



けんごろ物販ゆ、お目目、ハロウィンなど季節のイベントを開催しています。



全員での夕食

グループホームのご高齢のみなさんと一緒に全員で食事をします。大家族のような夕飯のひとときを過ごします。



学生ボランティアのお兄さん、お姉さんと宿題をすることができます。わからないところも教えてくれるので安心です。

いろいろな遊び





国際ソロプチミスト町田は、こども食堂『にこにこ 清風食堂』
を支援しております。

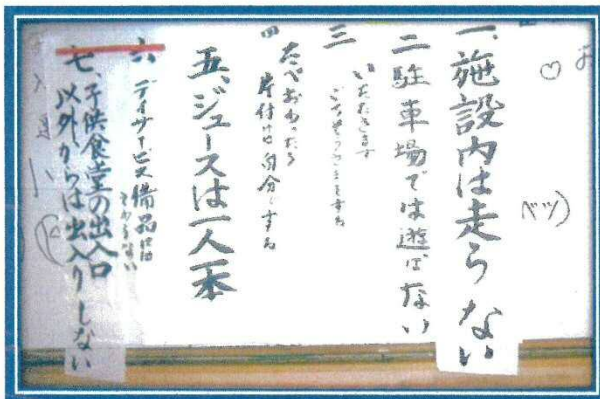
☆場所:清風園1階です
☆日時:毎月 第1・第3木曜日 5時より開催
☆対象:小・中学生
☆保育園児、幼稚園児も可☆
(小学生以上の兄弟または保護者同伴に限る)
☆費用:100円

子供の「孤食」を減らしたい!

高齢者や友達と一緒に食事をしたり
宿題やゲームをしませんか?
きっと楽しい時間がすごせますよ♪



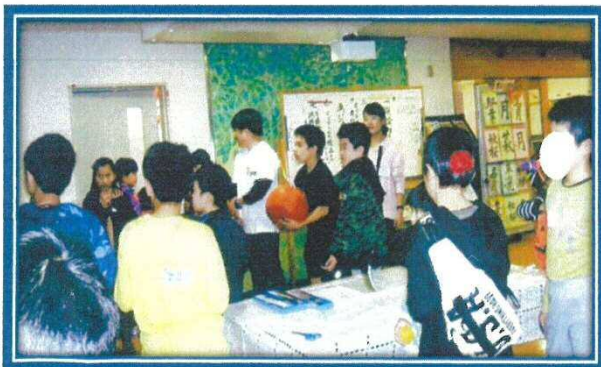
《ある日のメニュー》



《みんなで守ろうね》



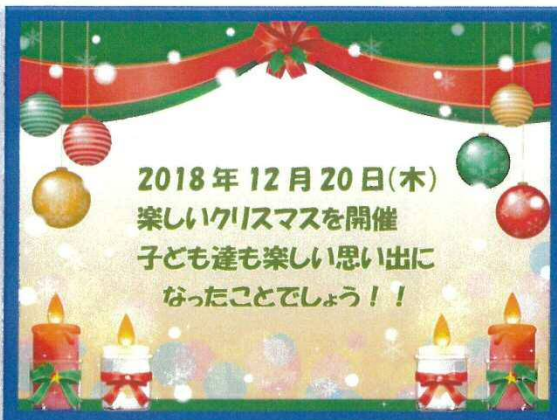
《食事風景》



《ハロウィン食事会》



《クリスマス食事会》



プレゼント



お兄さん、お姉さんと楽しく食事



玉川学園大学教育学部の皆さん23人のお手伝い



子ども食堂控室にて

7月15日(土)

平成29年(2017年)

第866号

町田ジャーナル

月刊
毎月15日発行(1・8月は25日)

発行所 株式会社 町田ジャーナル社 東京都町田市旭町2-1-3 〒194-0023
編集兼発行人 堀江行人 電話・FAX 042(726)8447

国際ソロプチミスト町田が清風食堂を支援

継続しての支援は初めての試み



国際ソロプチミスト町田(会長)前田美津子氏

主催「チャリティ・お茶会」オカリナ演奏を聴きながらのランチへのお誘い」が、五月二十四日午前十二時三十分から、ラポール千寿閣において開催された。

開会后、ソロプチミスト町田会長前田美津子氏が主催者挨拶を行った。「お蔭様で、こんなに盛大に開催できる事を感じ致しております。どうぞ

オカリナ演奏とお食事を楽しんで頂き、バザーの方も協力頂ければ、色々な所に奉仕が出来るのではないかなと思えます。ごゆっくり、この一時をお過ごし下さい。

その後、前田会長から社会福祉法人清風園施設長吉田美香氏に支援金が贈呈された。この寄付金は、子ども食堂「ここに清風食堂」の活動に寄せられたもの。

吉田氏の謝辞。「お招き頂きありがとうございます。この子ども食堂立ちあげのきっかけは、地域の会での民生委員の方の一言でした。『吉田さん、地域に住んでいる人はお年寄りだけではないよ。困っている人

は子供達もいるんだよ』という言葉でした。それで二〇一六年六月に第一回目の子ども食堂を始めました。立ちあげるまでに半年でした。今では、24回を数えます。お子様も2歳から中学校一年生が利用し、35名から20名が来てくれています。

私たちの清風園の職員有志、地域のボランティアの方、玉川大学の学生さん、本当に絆糸曲折しながら、ここに清風食堂を始められています。それを支えて下さっているのはボランティアの皆さんです。でも、半年で立ちあげる事が出来たのはやはり一番は職員達の心意気だと思えます。

今感じている事は『子供の感性は素晴らしい』それからこんな子が思うような子が案外悩みをもっている。ここに清風食堂に来ると友達も出て一杯遊べる。それから兵働きで夕食はいつも一人で食べている子等、色々な事が子供の姿から垣間見る事が出来ます。ですから、我々はご飯を提供しているだけではなく、学習支援や子供の相談相手、遊び相手、そして社会性を身につける場所として成り立っているのかなと感じています。

大金を頂いて、本当にありがとうございます。この後、食事に入り、オカリナ奏者波多野杜邦氏の演奏を楽しんだ。茶席は、抹茶席と煎茶席が設えられ、前者は高野宗佳氏が、後者は土方香英氏が主人を務めた。高野氏の挨拶。

「本日は、国際ソロプチミスト町田様の主催ですが、国際ソロプチミスト日本の初代ガハナが裏千家家元の千景代子様であったことから、浅からぬ縁を感じております。茶碗は、季節感のあるものをと云う事で、大樋黒の『松声』と秋の『笑顔』に致しました。軸は前園覺寺管長足立大進老大師の『ありがたい、もつたいない、おもいやり』という素晴らしい訓えのものに致しました。抹茶は宇治の『和光』

この社会福祉法人で子ども食堂を始めたいのは全国でも当所だけです。この取組を今後も続けられるよう、縛られない形で、市の助成金、国の補助金を頂かずに寄付金で運営しております。そのような中で、こんな

茶菓は鶴屋八幡の『山若葉』が接待された。そして、この事業は六月十九日の役員会で、平成30年から五カ年の継続事業として承認された。

平成29年7月15日発行

支援活動の決定に伴い「町田ジャーナル」に大きく掲載されました。